

# 第33回俳人協会秋田県支部 俳句大会の成績

秋田県支部では、5月14日、協働大町ビルにおいて第33回支部俳句大会を実施。会員及び一般俳句愛好者より216句が投句され、本部評議員の山田真砂年先生と特定選者3名による選と選評が行われた。入選句、互選高点句は次のとおりであった。

## 山田 真砂年 先生 選

- 特選 平日にジーパン履く身うららけし 佐藤 茂樹
- 特選 朧夜の母の眩き唄ふかに 鎌田 光江
- 秀逸 花筵おのおの特等席に坐し 柳川 大龜
- 同 白神の森まほろばと囀れり 米屋 道子
- 同 鳥海山の霞みて湯浴みするごとし 大原たかし
- 同 花守の履き古したる草履かな 麻生 白風
- 佳作 白神の櫛の芽吹きや峰走り 大橋 風太
- 同 雪焼けの農夫漕ぎゆくりんご山 安倍 幸一
- 同 水口を通り穏やか代田水 種村聖巴子
- 同 取り敢へず雲あそばせる代田かな 保泉 草笛
- 同 かぎろいて板碑の梵字うかれ出す 渡邊 雷夢
- 同 牛跳ねて奥へ駆け出す牧開き 塚本 佐市
- 同 母の座に母の戻りぬ春ともし 伊藤 青砂
- 同 種蒔に一男一女馳せ参ず 佐々木公平
- 同 眩しげに草を食む牛牧開き 田村 陽子

## 斎藤 淳子 選

- 特選 母の座に母の戻りぬ春ともし 伊藤 青砂
- 秀逸 雨蛙鳴いて生まるる静寂かな 保泉 草笛
- 同 山焼くや汀に長き風車群 神成 石男
- 佳作 朝焼を搔き分け来たる大漁旗 松井 憲一
- 同 牛跳ねて奥へ駆け出す牧開き 塚本 佐市
- 同 白神の森まほろばと囀れり 米屋 道子
- 同 冴返る青春と言ふ反抗期 和田 仁
- 同 土笛は太古の音色鳥ぐもり 伊藤 青砂

## 神成 石男 選

- 特選 ぶらんこに坐るふたりの背中かな 津谷 郁哉
- 秀逸 灯し合ふ安堵や十戸春おぼろ 京野 幸子
- 同 木に声をかけて雪吊解きにけり 斎藤 淳子
- 佳作 春灯や明治の父の蔵書印 保泉 草笛
- 同 かぎろいて板碑の梵字うかれ出す 渡邊 雷夢
- 同 春風を連れて来訪置き葉 田村 陽子
- 同 村百戸ことしも一人の入学児 石川一風子
- 同 ささやかな風にも応へ植田かな 二藤 誠祥

## 岩谷 塵外 選

- 特選 傍らに良き師良き友あたたかし 佐々木亮子
- 秀逸 まんざくや谷間をたぎる水の音 鎌田 光江
- 同 土笛は太古の音色鳥ぐもり 伊藤 青砂
- 佳作 白神の櫛の芽吹きや峰走り 大橋 風太
- 同 春灯や明治の父の蔵書印 保泉 草笛
- 同 雑祭囃せば踊る百五歳 木田橋敬一

- 同 露月碑や青田に動く雲の影 佐々木あや子
- 同 名水の湧き出る力夏木立 二藤 誠祥

## 互選の得点順位(⑦点まで11句)

- 一席⑫ 鯉幟やせゆく里をふくらまし 松井 憲一
- 一席⑬ 晩年のなほ夢を買ふ苗木市 小坂 富子
- 三席⑪ 一畝を入れて大地を目覚めさす 加藤 一弥
- 四席⑩ ローカル線ひと駅ごとの花に逢ふ 佐々木亮子
- 四席⑩ 灯し合ふ安堵や十戸春おぼろ 京野 幸子
- 六席⑨ 雑祭囃せば踊る百五歳 木田橋敬一
- 七席⑧ まだ熱き子の収骨や朱夏の闇 阿部清流子
- 七席⑧ 土笛は太古の音色鳥ぐもり 伊藤 青砂
- 九席⑦ 田を植えて峽に明るさ戻りけり 鈴木アヤ子
- 九席⑦ 大空を敷き込むやうに田水曳く 和田 仁
- 九席⑦ 戦なき空高々と鯉のぼり 大原たかし

# 第26回支部会員 鍛錬句会の成績

秋田県支部では、令和4年12月9日を投句締切として第26回支部会員鍛錬句会を実施、194句が投句された。入選句、互選高点句は次のとおりであった。

## 山崎 祐子 先生 選

- 特選 氣象図に帝の指紋寒波来る 園部 落郷
- 【評】上五中七で思い切った比喩を用い、下五で答えを言う。謎掛けのような構造の句である。

「帝」の語彙の背景には当然「冬帝」があるが、「冬帝の指紋」と詠んだのでは理詰めの句になつてしまう。「寒波来る」によつて実感のある句となつた。これ以上知が勝ると頭で作つた句になるところをうまく押さえている。

特選 初雪の一日で消ゆる忌日かな 斎藤 淳子

【評】雪国にとつてかならずしも雪は歓迎されるものではないが、初雪は格別なものだと思ふ。白は清浄の色である。故人をずっと思い続けて日常を送つてはいない。偉人の忌日でも、親しい人の忌日でも忌日の重さは同じ。「一日で消ゆる」は初雪なら当然。しかし、この語によつて忌日への切ない思いが伝わってくる。

秀逸 円型の檻に猿ゐる寒さかな 小川 千草

同 手鏡の空がまんまる小鳥来る 塚本 佐市

同 正月の会ふ子会ふ子の良い子かな 佐藤 景心

佳作 継ぎ足しの瘤の荒縄雪囲 佐藤 茂樹

同 追われても行き所なき冬の蠅 阿部清流子

同 バス停に大雪のバス泳いで来 園部 露郷

同 遺品など広げしままに初昔 田村 陽子

同 雪達磨片眼失ふ夜明けかな 佐藤 景心

同 はたはたのぶりと囁み来て永らへる 神成 石男

同 初雪や妣の便りと掌に享くる 木村 登龍

同 枯蓮になほ残照の響きあり 木村 登龍

同 日脚伸ぶ白いきいきの水墨画 塚本 佐市

同 二枚戸の開かぬ一枚寒の入 佐藤 景心

斎藤 淳子 選

特選 音楽の魔法にかかりスケーター 熊谷 尚

【評】フィギュアスケートは、芸術性や技術の高

さを競う競技の一つである。スケーターが氷上に立ち音楽が流れると、陶醉したかのように異次元の世界に瞬時に入り込んで華麗な演技を繰り広げていく。作品はその姿を「音楽の魔法」と捉えたのだ。発想力が斬新で、臨場感にあふれている。

秀逸 落葉して木々はこれより夢をみる 伊藤恵美子

同 寒雷や天守に光る鯨の反り 神成 石男

佳作 大根を燻して己が皴ふやす 岩谷 塵外

同 円型の檻に猿ゐる寒さかな 小川 千草

同 行く年の堂にひしめく絵馬の声 伊藤 青砂

同 抱かれて聖樹見上げる病児かな 米屋 道子

同 漁港いま舳先並べて初日の出 木村 登龍

熊谷 尚 選

特選 人声も消えて時雨るる舟だまり 米屋 道子

【評】「人声も消えて」の措辞から、時間の経過が感じられるところが面白いと思います。その少し前まで舟や人が行き交い、賑やかだった舟だまりの様子が想像されます。しんと静まり返った舟だまりと「時雨」がとてもよく響き合っており、しみじみとした情景が描き出されていると思います。

秀逸 うどん屋の仕事始の湯を沸かす 伊藤たよ女

同 めくら葡萄狂気の色を深めたり 山崎 雅葉

佳作 とりどりの藁沓下がる空家かな 加藤 百桜

同 初冬の水を吐き出す樋太し 鈴木東亜子

同 寒雷や天守に光る鯨の反り 神成 石男

同 枯蓮になほ残照の響きあり 木村 登龍

同 本復の声はソプラノ蒲団干す 佐々木あや子

泉 千穂子 選

特選 初東雲水垢離取りし坊の湯気 鳥 きく子

【評】初東雲にふさわしい神聖な、厳肅な光景が広がりました。お坊様の身体から出ている湯気は温かいはずなのですが、一層冷たさを感じさせます。湯気が場面の静かき、厳かき、清らかさ、冷たさを一層際立たせていると思います。同時に新しい年を迎える上でのお坊様の決意も響いています。

秀逸 バス停に大雪のバス泳いで来 園部 露郷

同 本復の声はソプラノ蒲団干す 佐々木あや子

佳作 洋装に落ち着く妻の春着かな 熊谷 尚

同 竹箒かはし駆けゆく柿落葉 安倍 幸一

同 むつのはな舞ふ手鏡の小宇宙 小林 呼溪

同 物思ひ途切れさせたる冬の雷 伊藤恵美子

同 二枚戸の開かぬ一枚寒の入 佐藤 景心

互選の得点順位(5点まで16句)

- 一席⑩ 大根を燻して己が皴ふやす 岩谷 塵外
- 二席⑦ 本復の声はソプラノ蒲団干す 佐々木あや子
- 三席⑥ 枕木に小春を乗せて一両車 加瀬谷敏子
- 三席⑥ 継ぎ足しの瘤の荒縄雪囲 佐藤 茂樹
- 三席⑥ 手鏡の空がまんまる小鳥来る 塚本 佐市
- 三席⑥ 煮凝や昭和の味の滲みし鍋 藤原貢太郎
- 七席⑤ 出羽富士を座標に据えて雁渡る 加藤 一弥
- 七席⑤ 折鶴に託す病棟冬日射す 明沢 榮子
- 七席⑤ 氣象図に帝の指紋寒波来る 園部 露郷
- 七席⑤ あいさつのきちんと出来て息白し 伊藤 青砂

七席⑤ きりたんぼ生涯抜けぬ秋田弁 伊藤 青砂  
 七席⑤ 人声も消えて時雨るる舟だまり 米屋 道子  
 七席⑤ これでよし決めた余生に冬日燃ゆ 浅野 法子  
 七席⑤ 硯海に思ひを込めて寒の水 西東 善秋  
 七席⑤ 漁港いま舳先並べて初日の出 木村 登龍  
 七席⑤ 枯蓮になほ残照の響きあり 木村 登龍

### 第1回支部会員

### 夏季鍛錬紙上句会の成績

秋田県支部では、7月26日を締切とし、初めての取り組みとなる東北各県支部役員を選者とする第1回夏季鍛錬紙上句会を実施。176句が投句された。入選句、互選高点句は次のとおりであった。

.....  
 小野 寿子 選  
 .....  
 特選 海の日を海軍たりし父知らず 打川 典子  
 特選 老人の合掌ながき原爆忌 伊藤たよ女  
 秀逸 鳥海山の稜線長し田水引く 木村 登龍  
 同 蚊遣火や生家の時間ゆるやかに 津谷 郁哉  
 同 鉢巻の固き結び日夏祭 津谷 郁哉  
 佳作 途切れたる話を繋ぐ扇子かな 麻生 白風  
 同 人一人会はぬ炎天樋屋町 田村 陽子  
 同 落成の学び舎つつむ青葉風 岩谷 塵外  
 同 祝米寿みんないい顔席涼し 小坂 富子  
 同 なすび漬水の紫紺も皿に盛り 保泉 草笛  
 同 リハビリの窓辺明るき花葵 木村 登龍

同 たちまちに鳥海山かくす白雨かな 二藤 誠祥  
 同 宿題は雲の観察夏休 熊谷 尚  
 同 裾野まで入り日に映える青田かな 西東 善秋  
 同 秋田露刈れば拡がる羽後の空 加藤 一弥  
 .....  
 鈴木 正子 選  
 .....  
 特選 奥入瀬の瀧何本も立ち上がる 岡部いさむ  
 特選 竿燈の長い停止に拍手わく 園部 露郷  
 秀逸 入り船に鷗むらがる大南風 高田 洋子  
 同 また待った葭簀の蔭の昼将棋 神成 石男  
 同 酒樽の並ぶ三和土の涼しさよ 二藤 誠祥  
 同 途切れたる話を繋ぐ扇子かな 麻生 白風  
 佳作 篝火に疲れ知らずの薪能 岡部いさむ  
 同 明るさは滅びの姿螢とぶ 岡部いさむ  
 同 蚊柱を大きく巻ひて牛歩む 佐々木公平  
 同 葭すずめ護岸工事に物申す 岩谷 塵外  
 同 風宥め挑む妙技や昼竿燈 山田 草人  
 同 行間に朱の加筆ある書を曝す 伊藤恵美子  
 同 父母も同胞亡きも盆の里 岡部由比女  
 同 秋田露刈れば拡がる羽後の空 加藤 一弥  
 同 川幅を使ひ切つたる流燈会 齋藤 淳子  
 .....  
 小林 里子 選  
 .....  
 特選 蚊遣火や生家の時間ゆるやかに 津谷 郁哉  
 特選 川幅を使ひ切つたる流燈会 齋藤 淳子  
 秀逸 紫陽花や湯浴みの母のひそかなる 大石 愛子  
 同 清水の水ある星に生まれ得て 小林 呼溪  
 同 ふるさとの川波荒き盃盆会 齋藤 淳子  
 佳作 途切れたる話を繋ぐ扇子かな 麻生 白風

同 来し方の昭和は遠し冷し酒 岡部いさむ  
 同 入り船に鷗むらがる大南風 高田 洋子  
 同 星涼し歩数かぞえてポストまで 大石 愛子  
 同 通夜の灯を消すや大きな火蛾一つ 阿部清流子  
 同 園児等の名札大きく更衣ふ 木村 登龍  
 同 たちまちに鳥海山かくす白雨かな 二藤 誠祥  
 同 教へ子のチエロ聴きにゆく夏ゆふべ 熊谷 尚  
 同 秋田露刈れば拡がる羽後の空 加藤 一弥  
 同 遡る源氏の系図土用干し 佐藤 景心

### 「あきたの文芸」第56集 支部員の成績

令和5年11月10日、秋田県が主催する「あきたの文芸第56集」が発表され、支部員の成績は次のとおりであった。

- ◆最優秀賞 「日記の余白」 大橋 風太
- ◆奨励賞 「晋山法要」 加瀬谷敏子
- ◆奨励賞 「城跡散策」 田村 陽子
- ◆入選 「暮らしのほitori」 塚本 佐市

### 第3回秋田県短詩型文芸大会 入選作品

秋田県芸術文化協会が主催し秋田県支部が後援する  
第3回秋田県短詩型文芸大会が6年2月、にぎわい交  
流館で開催された。

支部員の入選作品は次のとおりであった。

#### 佐藤 景心 選

入選 決壊の川の補修も秋に入る  
同 虫に寝て虫に目覚むる湯治宿  
同 クレヨン画届く勤労感謝の日

#### 佐々木 公平 選

特選 遅しき氷柱の家の子沢山  
入選 過疎の村老いも若きも百万遍  
同 山下りる牛を急かすか草紅葉  
同 クレヨン画届く勤労感謝の日

#### 豎阿彌 放心 選

入選 ごみ拾ふ小さき奉仕秋夕焼  
同 天高し村に男の子の誕生す  
同 街明り途切れてよりの星月夜  
同 クレヨン画届く勤労感謝の日

米屋 道子  
岩谷 塵外  
泉 千穂子  
佐藤 景心  
齋藤 みどり  
加藤 一弥  
泉 千穂子  
鳥 きく子  
齋藤 みどり  
熊谷 尚  
泉 千穂子

### 公益社団法人俳人協会主催 第62回全国俳句大会 入選作品

令和5年9月12日開催した第62回全国俳句大会の当  
県支部員の入選並びに予選通過作品は次のとおりで  
あった。

なお、今大会の投句総数は1万1,870句、予選  
通過作品は1,011句であった。

#### 今井 聖 選

入選 ふと靴に乗つて動かぬ初蛙

#### 予選通過作品

ふと靴に乗つて動かぬ初蛙  
冬の田や四方に村と山を据え

【ジュニアの部】  
奨励賞 八峰町立峰浜小学校



浅野 法子  
浅野 法子  
浅野 法子  
佐藤 景心

### 石井露月顕彰 第65回全国俳句大会 入選作品

秋田県支部が後援する第65回石井露月顕彰全国俳句  
大会が9月16日、秋田市雄和市民サービスマンセンターで  
開催された。

#### 豎阿彌 放心 選

特選 万緑や奥の暗がり水の音

#### 佐藤 景心 選

入選 客人に遠山見えて夏座敷  
同 六月や喪服の人に黙礼す

#### 佐々木 公平 選

特選 露月居に子規の遺影や昼ちちろ  
秀逸 客人に遠山見えて夏座敷  
入選 灯を消して子らうつ伏せに蛍籠  
同 女米木衆露月好みのとろろ汁

加瀬谷敏子  
神成 石男  
宇佐見レイ子  
神成 塵外  
岩谷 石男  
大橋 風太  
岡部いさむ

# 第39回奥の細道象潟 全国俳句大会 入選作品

秋田県支部が後援する第39回奥の細道象潟全国俳句大会が8月5日、にかほ市道の駅象潟「ねむの丘」で開催された。

支部員の入選作品は次のとおりであった。

## 西村和子選

- 特選 雲の峰牛診る袖を捲り上げ 佐々木公平
- 同 象潟の島よみがへる植田風 塚本 佐市
- 秀逸 熔岩狭間すつくと鳥海薊かな 森屋 慶基
- 同 代田掻き一と日は泥を落ち着かせ 加瀬谷敏子
- 同 黒服の降りて白服乗り込めり 神成 石男
- 佳作 大学におしやべりつきぬ雀の子 岡部いさむ
- 同 田植機を降りて解きたる束ね髪 大橋 風太
- 同 芍薬と向き合ふ独り暮しかな 高橋 恭三



# 公益社団法人俳人協会主催 第34回東北俳句大会・ 福島大会入選作品

東北俳句大会・福島大会は、新型コロナウイルスの情勢を踏まえ紙上大会に変更して実施。支部員の特選句は、次のとおりであった。

## 【選者賞】

- 逃げ水や少女天使となりて舞ふ 塚本 佐市
- 金魚飼ふ長き余生の道連れに 保泉 草笛

## 【特選】

- 園部 蒨 郷選
- 逃げ水や少女天使となりて舞ふ 塚本 佐市
- 白濱 一羊選

金魚飼ふ長き余生の道連れに 保泉 草笛



# 各種大会の予定

- 俳人協会第63回全国俳句大会
  - ・ 4月15日（締切）
- 俳人協会秋田県支部俳句大会
  - ・ 5月12日（予定・案内通知）
- 第2回夏季鍛錬紙上句会
  - ・ 7月中（予定・案内通知）
- 俳人協会東北俳句大会・山形大会
  - ・ 9月16日
- ・ ホテルメトロポリタン山形
- 第28回支部会員鍛錬紙上句会
  - ・ 11月中（予定・案内通知）
- 俳人協会俳句大賞
  - ・ 6月本部会員対象（12月『俳句文学館』発表）

## 令和6年度

### 県支部俳句大会の

講師にご来県予定の

# 山崎 祐子先生

先生は昭和31年福島県生まれ。

昭和59年「風」入会、平成2年「風」新人賞受賞、  
同人。平成21年「りの」創刊同人。24年「絵空」  
を4人で創刊。

句集に『点晴』（第28回俳人協会新人賞受賞）・  
『葉脈図』

現在「りの」同人会長。「絵空」同人。  
俳人協会評議員。日本文藝家協会会員